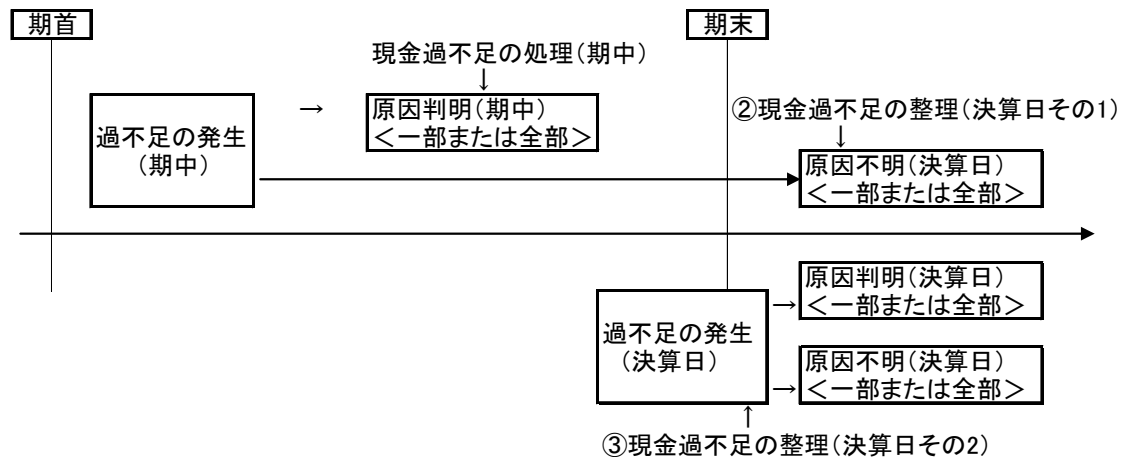


テーマ 17 決算の手続き（Ⅱ）

現金の過不足の整理と消耗品、売上原価の決算整理について見ていきます。

① 現金過不足の発生と原因の判明について

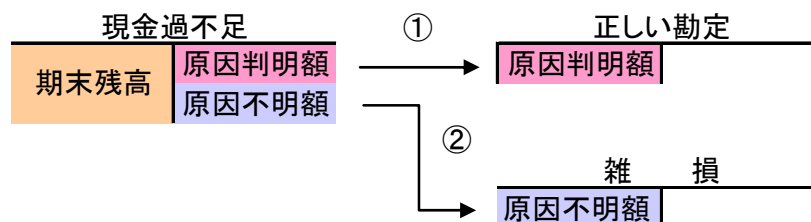
現金過不足が発生した場合における一連の会計処理の流れは、以下の通りです。



現金過不足勘定は、実際有高と帳簿残高の不一致額を一時的に記録する仮勘定なので、決算の時点で残高があるときは、これを適切な勘定に振り替えます。

② 現金過不足の整理（決算日その1）

決算時点で現金過不足勘定に残高がある場合には、次のように処理します。



1. 決算日に原因がわかったとき

簿記論 A テーマ 6 の現金で学習したように、現金過不足勘定を正しい勘定に振り替えます。

2. 決算日になっても原因がわからないとき

現金過不足勘定の残高を雑損勘定または雑益勘定に振り替えます。

① 借方残高のとき

現金過不足勘定の借方残高は、原因不明の不足額なので、これを雑損勘定または雑損失勘定（費用の勘定）に振り替えます。

設例 17-1

12月31日、決算となり、現金過不足勘定の借方残高15円を雑損として処理した。
 （雑損）15 （現金過不足）15

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金過不足	15			15				
雑損			15		15			

② 貸方残高のとき

現金過不足勘定の貸方残高は、原因不明の超過額なので、これを雑益勘定または雑収入勘定（収益の勘定）に振り替えます。

設例 17-2

12月31日、決算となり、現金過不足勘定の貸方残高10円を雑益として処理した。
 （現金過不足）10 （雑益）10

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金過不足		10	10					
雑益				10		10		

③ 現金過不足の整理（決算日その2）

決算日に現金過不足が生じた場合は期中の場合と同様に、まず原因を調査して、次のいずれかの処理をします。ただし、現金過不足勘定は経由しません。

1. 原因がわかったとき

原因判明額を直接、正しい勘定へ振り替えます。

設例 17-3

12月31日、決算において現金の不足が200円発生した。原因を究明したところ、通信費支払いの記帳漏れであることが判明した。

(通信費) 200 (現金) 200

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	2,500			200			2,300	
通信費	4,300		200		4,500			

2. 原因がわからないとき

不一致額を直接、雑益または雑損として処理します。

設例 17-4

12月31日、決算において現金の不足が200円発生した。原因を調査したがわからなかった。

(雑損) 200 (現金) 200

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	4,800			200			4,600	
雑損			200		200			

④ 消耗品の整理

消耗品とは、コピー紙など事務用品や包装用材料などの「すぐに使ってしまうもの」をいい、消耗品の買入高のうち使ったものは費用、残ったものは資産として処理します。

ここでは、購入時に費用処理する方法を説明します。

(1) 購入したとき

費用処理する方法は、消耗品費という費用がかかったと考えて、消耗品費勘定（費用の勘定）の借方に買入高を記入します。

仕訳例 1

5月1日、消耗品 500 円を買い入れ、代金は現金で支払った。

(消耗品費) 500 (現 金) 500

(2) 決算のとき

消耗品の期末未消費高（未使用分）を、消耗品費勘定（費用の勘定）から消耗品勘定（資産の勘定）に振り替えます。

設例 17-5 [仕訳例 1]の続き

12月31日、決算につき消耗品の期末未消費高が 50 円であった。（期首残高なし）

(消耗品) 50 (消耗品費) 50

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
消耗品費	500			50	450			
消耗品			50				50	

⑤ 売上原価の計算

1. 売上総利益とは

一会計期間における商品の売買益を売上総利益といいます。売上総利益は、一会計期間に販売した商品の売上高から売上原価を差し引いて計算します。

$$\text{売上総利益} = \text{売上高} - \text{売上原価}$$

2. 売上原価とは

売上原価とは、一会計期間に販売した商品の原価をいい、以下のように計算します。

$$\text{売上原価} = \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高}$$

(期首在庫) (仕 入) (期末在庫)

売上高は、売上勘定の貸方残高として示されていますが、売上原価は三分法の場合、期中ではどの勘定にも示されていません。したがって、売上原価を計算しないと売上総利益も計算できません。

設例 17-6

毎期 1 個 100 円のリンゴを 4 個仕入れ，1 個あたり 120 円で販売したとします．次の①～②の各ケースにおける売上原価と売上総利益の金額を求めなさい．

① 期首に在庫がないケース

1 個 100 円のリンゴを 4 個仕入れ，2 個売れ残ったとすると，売上原価は 200 円，売上総利益は 40 円と計算します．

期首商品 + 仕入高 - 期末商品 = 売上原価

(0) (400) (200) (200)

240 円 (@120 円 × 2 個) - 200 円 = 40 円

② 期首・期末に在庫があるケース

前期末にリンゴが 2 個売れ残っていたと仮定すると，当期に販売可能なリンゴは合計 6 個になります．当期末に 1 個売れ残ったとすれば，売上原価は 500 円，売上総利益は 100 円と計算します．

期首商品 + 仕入高 - 期末商品 = 売上原価

(200) (400) (100) (500)

600 円 (@120 円 × 5 個) - 500 円 = 100 円

3. 売上原価を計算するための仕訳

今度は，売上原価を「設例 17-6」の②の数値を使って勘定で計算します．

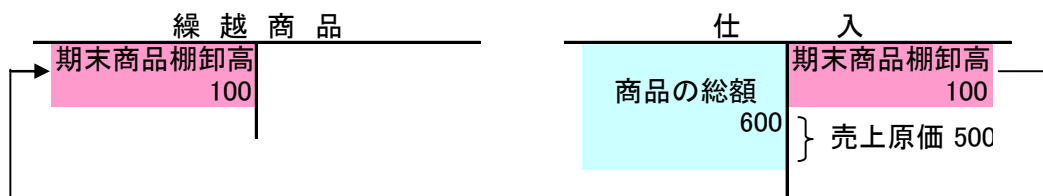
(1) 仕入勘定で計算する場合

Step 1 期首商品棚卸高（前期繰越高）を，繰越商品勘定から仕入勘定の借方に振り替えて，仕入勘定の残高を商品の総額とします．

繰 越 商 品		仕 入	
前期繰越高	期首商品棚卸高	(純)仕入高	} 商品の総額600
200	200	400	
		期首商品棚卸高	
		200	
(仕 入) 200		(繰越商品) 200	

Step 2 期末商品棚卸高（次期繰越高）を，仕入勘定から繰越商品勘定の借方に振り替えて，商品の総額から売れ残り分を差し引いて資産として処理します。

この結果，仕入勘定の借方残高は売上原価を示すことになります。



(繰越商品) 100 (仕 入) 100

設例 17-7

12月31日，決算につき仕入勘定で売上原価を計算する．なお，期末商品棚卸は100である．

(仕 入) 200 (繰越商品) 200
(繰越商品) 100 (仕 入) 100

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	200		100	200			100	
仕入	400		200	100	500			

練習問題

次の取引を仕訳しなさい．

(1) 現金の実際有高を調べたところ，帳簿残高より1,000円不足していた．

() ()

(2) 上記不足額のうち700円は交通費の記帳漏れであることがわかった．

() ()

(3) 上記不足額の残額300円は決算日になってもその原因がわからないため，雑損とした．

() ()

(4) 決算において現金の不足額が 1,000 円発生した。原因を調べた所、通信費の記帳漏れであることがわかった。

() ()

(5) 消耗品 500 円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。

() ()

(6) 決算となり、実地棚卸を行った所、消耗品の未使用分が 100 円あった。

() ()

次の勘定の記録に基いて、売上原価を仕入勘定で計算する場合の仕訳を示しなさい。なお、期末商品棚卸高は 300 円である。

繰越商品		売上	
前期繰越	200	売掛金	2,000
仕入			
現金	1,000		

(7) () ()

() ()